

蘇乃根のふふ甘志比礼の御見入
と市川若菜よりたむさぶる御見入
志とく喘息つりふりつりて
酒のみる御歌仙一歌

湖うねり西山崎わさねの眺まらふ 漢甫

その本さく良乃燈北茂ぬく 岷山

仲うぬをよふ子花此月又さす 作良

去るくきの草若花乃夢 唐笑

きさ裏の土を一本く啼ふ古 伐柯

山折る月よ 百乃多き出 南交

走りつめ言葉をき 祝文 五杉

千手さきり 浄多理の如し 仙衣

流食若風海人乃不き 黒澤

芝山四方のめくを流るは湖の面
小船の志のけさむをさす

山やあふる池の地しをぬれ 作良

夕湖や雲はくす小けうの支 岷山

水海に目を露り雲の道 唐笑

見おろみやをれ奈情を湖乃面 仙衣

夕日あき横うぬまき 湖水 黒澤

これよふさき

湖ふくや志ふ凄まじくおるまで 阿蔵

村自久のふれぬ田ふらの湖あり
昔とらる。此湖の空ふくり
あ本の橋とてつらきおら
けいふも可らうふらうし
のまきさおらうし
とまきさうし

藤子むの時 藤子む 二二三 可都里

壬子三月九日

甲斐藤田連